

力を身に付けることができるであろう。」とし、児童一人ひとりの学習状況についての実態の把握と分析、同時に言語活動の充実の研究を行った。また、研究仮説2「じっくりと考える時間を確保したり、子どもの意欲を高める授業づくりを工夫したりすることで、より自分の考えを深めようとする姿勢が育つであろう。」とし、少人数・複式学級における授業づくりの工夫及び改善に取り組んだ。研究仮説3「評価の場面や内容を工夫することで、自分を見つめ自分の考えを深め、高めていくことができるであろう。」とし、変化が見える評価活動のあり方を探った。



3. 公開授業

① 1年生は「けんかした山」2年生は「きつねのおきゃくさま」の題材で、考える時間を十分に確保する授業を構成し、動作化を取り入れることで、登場人物の気持ちを深く考えさせた。

② 5年生「台風と天気の変化」6年生「水溶液の性質とはたらき」の単元で、5年生はICTを利用した学習を行い、6年生は二人で議論し根拠を明らかにしながら、5つの水溶液の正体を探るため、多面的に調べる活動を行った。

4. 研究協議

どの学年も、子どもたちが今何をするのかが良く分かっていたこと、ヒントカードや学習シートによる手立てが良いなどの感想や、一人学年の学びの深まり・交流のあり方についての意見が出された。助言者からは、本校の研究の視点とへき地複式との関連、一人学習における間接指導の研究、問題解決的な学習を通した学びの手立てなどで講評・助言をいただいた。

第9分科会 むかわ町立宮戸小学校

1. 研究主題

「自ら考え自ら学び、互いに高め合う子供の育成」
～基礎・基本をもとに、思いを伝え合う国語科の学習を通して～

2. 研究内容



研究仮説1を「文字を正しく読み取することを重視した授業の組み立て、書く活動を支援することによって自ら学ぶ子供が育つであろう」とし、正しい漢字と語句の習得、音読カードとワークシートの工夫を行った。研究仮説2を「一人一人が学び方を身につけ、言語を通して互いに表現し、理解し合うことによって、思いを伝え合い、高め合う子供が育つだろう」とし、間接指導における教科リーダーの役割を明確にした学習過程の構築に取り組んだ。

3. 公開授業

①1年生単元「けんかした山」では、音読を多く取り入れた授業を展開した。中学年単元「願いを受け止めて読もう」・・・3年生：「わすれられないおくりもの」、4年生：「一つの花」では、考えを明確にできるよう書く活動を取り入れた授業を展開した。高学年「5年生単元 生き方を見つめて読もう、大造じいさんとがん」「6年生単元 人間を見つめて読もう、川とノリオ」では、言葉の使い方に対する感覚を磨く学習展開を工夫した。特別支援つくし学級では単元「生き方を見つめて読もう、大造じいさんとがん」では、心情を読み取る工夫をした授業を展開した。

②2次公開集会活動・・・詩の朗読や呼びかけと「全校音楽・ヨサコイ」を融合した発表を行った。

4. 研究協議

教科リーダーを中心に自ら学習を進めていくスタイル、キーワードを基にして登場人物の心情に迫るワークシートは学校全体で統一された研修の成果と評された。書く活動に対するきめ細かい指導方法について、多くの意見が交流された。助言者からは、「主体性を育てる学習過程の改善・充実」に対する評価をいただいた。また、国語科各領域と本校研究の内容との関わり、さらに今後の課題として、目的に応じて効果的な読み方を取り入れた単元の指導計画を工夫し、言語活動の充実を目指してほしいとの講評をいただいた。

参加者からの声

第1分科会 豊浦町立大岸小学校

どの学級も日常の積み重ねが伝わってくる授業でした。「書くこと」に力を入れつつ、言葉の意味や使い方も丁寧に説明し、国語の力を引き上げることができる取組が見られました。児童は照れ屋さんが多いようですが、素朴で可愛く、照れている様子も微笑ましく思いながら授業を見させていただきました。授業をされた先生方の表情がとても明るく児童との信頼関係が築かれていると感じました。大変勉強になりました。

第2分科会 壮瞥町立久保内小学校

学習の流れや内容が視覚的に分かりやすく提示され、ホワイトボードを使いながら、自分の考えをしっかりと持たせ、考え合う授業は、子どもに力が付くと感じました。板書、掲示物など配慮があり、全職員が組織的に取り組んできた姿が見られました。子どもたちの意見をうまく取り上げ、大変良い授業でした。複式、少人数でも単式、多人数でもやはり学級経営、温かい雰囲気、規律あるルール、真剣に教師も子どもも取り組むことが大事だと感じました。

第3分科会 伊達市立関内小学校

授業規律、子どもたちの学習意欲があり見て楽しい2時間でした。私は初めての複式学級担任となり、戸惑うことも多く、全てが勉強だと思いはるばる参加しました。算数科で大事にしたいことがどの授業にも共通にされていて、それが基礎・基本の定着に結びつくことがよく分かりました。毎日の確認テストも定着を高めますね。“わたり”が上手く出来ない私。授業の中身を整理しタイミング良い“わたり”を頑張ります。

第4分科会 室蘭市立喜門岱小学校

子どもたちが学習の進め方を理解し、意欲的に生き生きと学習に取り組んでいて素晴らしかったです。ガイド話型は、話し合いを主体的に進めていくのに有効でした。子どもたちがキーワードを絞って、そこから具体的な気持ちを考えさせた方が話し合いの交流に近づけるのではないのでしょうか。低学年は、大きな絵や映像を用いることで、言葉や物語のイメージを膨らませることができていました。縦割り活動は必然的にかかわり合う力の素養を身に付けることになっています。

第5分科会 白老町立社台小学校

これまでの学習の様子分かる掲示やノートがあり、良かったです。こういう大会では難しいかもしれませんが、授業中の子どもの声をもっと聞きたかったです。改めて複式の授業の難しさを感じました。授業公開にあたり新学習指導要領に盛り込まれた事項を早速取り入れるなど大変だったと思います。ご苦労様でした。

それぞれの先生方が熱心に、真剣に子どもに向き合っていた姿は良かったです。子どもも頑張っていたと思います。

第6分科会 苫小牧市立樽前小学校

低学年は、昨年たった一人の1年生だった子が、2年生として個性的な4人の1年生のリーダーに成長している姿に出会えました。中学年は、「しあわせ」に着目した討議づくりという課題設定に「なるほど、こういうやり方もあるんだ。」と感服しました。高学年は、言葉一つ一つ、文を一文一文大切に作る授業、子どもに身につけている国語力、言語力の高さに、これまで取り組まれたことが授業の中で見ることができました。少人数ならではのきめ細かい配慮や指導があり、子どもたちも課題に向かって真剣に取り組んでいました。

第7分科会 安平町立富岡小学校

低学年は、発問が短く、黒板も必要なことだけで分かりやすいと思いました。中学年は、落ち着いて授業に向かう姿勢が良かったと思います。高学年は、発問の言葉を吟味し、限定した言葉を投げかける授業を見て、子どもに話をしっかり聞く姿勢を身に付けさせる上で、また、子どもの思考を不必要な言葉で中断させないという意味でも大変勉強になりました。わたりが1回というスタイルは初めて見たので、少し驚いたのですが、基本的な習熟などがなされていたと思います。

第8分科会 厚真町立軽舞小学校

ワークシートやヒントカード、ICTの活用など、“わたり”がある中でも、子ども一人一人がしっかりと学習に取り組めるように配慮されていました。「わたり、ずらし」のタイミングの難しさや子どもへの支援の仕方など、先生方のご苦労を感じましたが、子どもたちは本当に立派に育っていて、複式学級のデメリットをメリットに変え、自学自習の力など単式学級にも参考になるものがたくさんありました。子どもたちが生き生きと授業に取り組んでいたのが印象的でした。

第9分科会 むかわ町立宮戸小学校

学習環境の整備や間接指導の進め方など、事前に研究・準備を確実に取り組まれている様子が伺えました。昨年、初めて複式学級を担任し、4教科、わたりずらしの授業をしてきました。毎日悩みながら格闘していました。今日、多くのヒントをいただきました。特に、教科リーダーの育成は、自分には全くない視点でした。どの学級も昨年からの大きな伸びを感じました。日々、先生方が努力された結果ではないのでしょうか。全校音楽のレベルも上がっていて、すごいと思いました。